

個 別 の 人 権 課 題		高 齢 者	
校 种	中学校	本時に関わる 3つの側面	知 識 的 側 面 ○
対 象 学 年 等	第1学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面 ○
教 科 等	技術・家庭 (家庭分野)		技 能 的 側 面 ◎
单 元 名	家族・家庭や地域との関わり		

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

- ア 家庭生活は地域の人々との相互の関わりで成り立っていることがわかり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解する。
- イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付ける。
- ウ 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題解決に向けて主体的に取り組み、生活を工夫し創造し実践しようとする。

(2) 単元の計画

- 1次・・・家庭生活と地域との関わり
- 2次・・・高齢者との関わり方 (本時)
- 3次・・・高齢者や地域の人々と協働する方法

2 学習指導要領等の該当箇所

中学校学習指導要領・第2章・第8節 技術・家庭 (家庭分野)

2 内容 A 家族・家庭生活

(3) 家族・家庭や地域との関わり

- ア 次のような知識を身に付けること。
- (イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。
- イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。

3 本時の目標

高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方について理解し、介助が必要な高齢者とよりよく生活するための方法について考える。

4 人権教育との関わり

この単元では、家族・家庭と地域との関わりについて学習する中で、個別の人権課題の一つである「高齢者」に関する内容を取り扱います。家庭生活は、高齢者など地域の様々な人々と協働するなど、地域と家庭との相互の関わりで成り立っていることに気付かせます。また、高齢者が社会を構成する一員として各種の活動に積極的に参加するためには、中学生の自分たちが地域の一員として、高齢者など地域の人々とどのように関わり、協働することできるか考察できるようにすることも大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	自尊感情・自己開示・偏見等、人権課題の解決に必要な概念に関する知識
価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	多様性に対する開かれた心と肯定的評価
技 能 的 側 面	他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<p>■学習活動</p> <p>【前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認しよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族には互いの立場や役割があり、協力することによって家族関係をよりよくできる。 ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っており、高齢者など地域の人々と協働する必要がある。 ・日本の高齢社会の現状を知り、高齢者の身体の特徴を踏まえて関わる必要がある。 		<p>○資料「人口と高齢者の割合を示したグラフ」(総務省統計局), (竹原市)</p>
<p>【課題】高齢者の身体の特徴や気持ちを考え、介助が必要な高齢者との関わり方を考えよう。</p>		
<p>■学習活動</p> <p>【高齢者の疑似体験をしよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手袋をした手で筆箱の中から筆記用具をとり、ワークシートに文字を記入する。 		<p>○教材「高齢者体験グッズ」</p>
<p>■学習活動</p> <p>【介護施設で働く人へのインタビュービデオを観よう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護施設で働く人へのインタビュービデオを観て、高齢者と関わるときの気持ちや気を付けていることを知る。 	<p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体验活動を通して、中学生とは異なる高齢者の身体の特徴や気持ちを実感を伴って考えさせる。 	
<p>■学習活動 (ペア)</p> <p>【耳栓をつけ、右手全体（腕・肩）を患部とし、体操服（長袖）の着脱介助の活動を通して、高齢者の身体の特徴及び気持ちを考えよう。また介助者として感じることをまとめよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交代して、介助する側と介助される側の両方を体験し、次の点を確認する。 <p>(身体の特徴) 聞こえ方、体の動きなど</p> <p>(高齢者の気持ち) 手伝ってもらうと脱衣しやすいか、手伝ってもらって嬉しいと思うか、申し訳ないと感じるかなど</p> <p>(介助者) 自分の声が伝わっているか、高齢者が難しいと感じることは何か、患部の肩や腕は痛くないかなど</p>	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情・自己開示・偏見等、人権課題の解決に必要な概念に関する知識 <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助が必要な場合も一人の人間として尊重し合うことにより、全ての人が人間らしく生きることができることを理解させる。 	<p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性に対する開かれた心と肯定的評価 <p>【指導のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体の特徴だけでなく、一人一人の様々な気持ちを踏まえた関わり方をする必要があることに気付かせる。
<p>【まとめ】高齢者は、身体の特徴から日常生活で困難を感じることがある。高齢者と関わる際は、身体の特徴や気持ちを踏まえて、高齢者の気持ちを確認しながら接することが大切である。そのために、普段から高齢者など地域の人々と声を交わしたり、地域の行事に参加したりして関わりをもつことが重要である。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返るとともに、次時の学習に向けて、自分たちや高齢者が参加できる地域の活動や行事について、内容を調べておくことを伝える。 <p>(次時の学習内容) 地域の活動や行事などで、高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法を考える。</p>		